

---

# あの日の場所で

青山輝人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

あの日の場所

### 【Nコード】

N2278D

### 【作者名】

青山輝人

### 【あらすじ】

この話は本人が実際に経験したものを元にした話です。昔の恋愛と今の恋愛は違うと思いますが、僕15才での恋愛、とても今時とは思えない恋愛だと思います。人の感情をそのままにりあるな小説だと思います。

## 元カノへ（前書き）

もう一度、もう一度でいいからあの頃に帰りたいよ。ごめんなあ  
いつを幸せにすると約束したのに、自分の気持ちがはつきりしな  
い。そんな自分を憎み、あいつからの一言で俺は闇に包まれた。「  
別れよ」

元カノへ

もう一度、

もう一度でいいから

あの頃に  
戻りたいよ。

ごめんな

ずっとずっと？

あいつを幸せにする  
と約束したのに、

自分の気持ち  
がはつきりしない。

そんな自分を憎み、

あいつからの一言で  
俺は闇に包まれた。

「別れよ」、あぁ。

苦しかった

悲しかった

辛かった

別れたくねえよ

でも最後まで気持ちを  
伝えることはできなかった。

今までありがとう

、 、 さようなら。

## 元カノへ（後書き）

人には恋と愛する気持ちがあると思う。みんなその気持ちが恋なのか愛なのか気付く前に付き合ひ、失恋に苦しみ、恋愛恐怖症になつて幸せをつかむことができない。この小説を読んで愛と恋の違いをわかってほしい！

## 出会い

「ハックション！」

もうすぐ新学期が始まるうとするのに俺は花粉症にかかっていた。

俺の名前は、  
中村翼。

サッカー部に所属していて  
市の代表に選ばれている  
チームのムードメーカーだ。

何より新学期を楽しみに

していた俺は好きな人と

同じクラスになれるように

願っていた。

そう、



俺の好きな人は

元1 - B組の  
西川綾香。

綾香はこの  
東條中学校とうじょうでの  
アイドル的存在な人だ。

メアドがほしいと思い

友達から教えてもらった。

俺は友達に

綾香のメアドを聞いた。

『綾香のメアド教えてくれへん？』

『いいよ！』、、、

と俺は綾香のメアドをゲットした。

ドキドキしながら綾香に  
メールを送った。

『元1 - A組の中村翼やけど知ってるかな?』

後々この文章に自信がなくなってきた。  
返事が気になる。

ブウウン ブウウン・・・

あ、きた！

綾香からだ。

『あゝ翼ね。知ってるよ。登録するね〜!』

可愛いなあ。

俺はこの子に惚れてしまっていた。

ある日のこと。

『090 - XXXXX - XXXXX』  
綾香の電話番号だ。

すごい嬉しかった。

正直どうすればいいのかわからなかった。

『ワン切りしていい?』

『いいよー!』

俺はドキドキしながら受話器に手をかけた。

ブルルルルルル　ブルルル・  
あれ？

「もしもし」

、、　「はい？」

「ワン切り失敗だね？」笑

「あ・うん！ごめん」

「あははは！こっちこそ悪いことしちゃったね。じゃあね」

「ああ・じゃあな」

ガチャン

びっくりした。

でも、なんか  
嬉しかった。

ドキドキが止まらない。

「ふ」

緊張のあまりにため息がついた。

ブウウン ブウウン

『さっきはごめんね。』

正直ありがとうと  
言いたかった。

『いいよ。こっちこそ何も喋れなくてごめん。』

はあ。

綾香の事しか頭にない。

新学期まで後三日。

俺はこの春休み綾香との  
メールが1番の楽しみだった。

綾香と同じクラスになればいいのにな、

新学期への楽しみは  
これしかなかった。

## 運命が偶然か

とうとう春休みも終わり、  
今日から新学期だ。

楽しみに待っていた  
新しいクラス。

綾香がいたらいいだけ。

朝練が終わり

俺はクラス表の所に走った。

「西川綾香、西川綾香、」

「お前何言ってた?!」  
と元１－Ｃ組の拓哉がつっこんだ。

「あ、間違えた！（笑）  
中村翼、中村翼．．あつた！！」

俺は2-C組。

綾香のクラスは、、

ん？

そこには間違いなく  
2-C組に西川綾香と書いてあつた。

「よっしゃー！」

俺は素で喜んだ。

しばらくすると  
綾香がこっちにきた。

「同じクラスになったね」

「そっやな！」



これが綾香との初めての会話だ。

初めての会話は  
俺の喜びでもあり希望でもあった。

席も近い。

運命なのか？  
一人合点していた。

俺の担任・・・加藤だ。

あの熱血教師だけは

絶対嫌だった。

今日の学校はすぐに終わり

家に帰って早速綾香にメールをした。

『帰った？まさか同じクラスになるなんて思ってたよ』

『到着。遅くなってごめんね。今帰ったよ。そうだね。なんか気まずいな』

俺はちょっとドキつとした。

『ハハハ！気まずいかあ？』

『うん！だってメールだけだったもん』

こうして幸せな一日が過ぎていった。

「おはよう」

綾香からの挨拶は

俺にとっての癒し系だった。

綾香を俺のものにしたい、

いつの間にか俺は

綾香への愛が恋に変わっていた。

付き合いたい

夏休みに告白をしよう、

俺は告白がうまくいくように

毎日アピールをした。

綾香はどう思っているのか  
わからないけど俺は精一杯  
綾香に近づこうとした。

6月29日。

近くの遊園地でお祭りが開かれる。

C組で行ける人を誘った。

もちろん綾香を、

楽しみにお祭りをむかえた。

友達より綾香との

思い出を作りたかった。

だから正直周りが邪魔で  
しょうがなかった。男達と違って

出来る限り綾香と一緒に  
行動した。

帰り道。男達と違って

綾香達は車で来たため

俺達は綾香達に合わせて

自転車を引いて歩いて行った。

綾香達のお母さんは

近くの本屋さんで待っていると報告があった。

俺は綾香達の荷物を自転車のかごに入れ、男達は早く帰ろうとするなか、俺は綾香達のペースに合わせた。

相手の親が心配する前に

早く帰ろうとペースをあげた。

すると綾香の携帯に着信があった。

「もしもし？」

「ああ、達也やけどわかる？」

達也とは同じクラスの  
ヤンキーだ。族にも入っていて危ない奴だ。

「うん。」

「今何しとる？」

ちよつとウザがっている  
綾香をみて俺が達也の相手をした。

「翼やけど、ごめんやけど今祭きとるんや」

「おお！それや悪いな。」

「じゃあ、楽しみますわ！（笑）」

「ああ！じゃあな」

プツン

綾香の顔はホツとしていた。

良かった。

## 始めての告白

楽しいお祭りのデートが終わり、  
もうすぐ夏休み

俺は夏休みに告白しようと

日々思っていた。

夏休みまでに綾香に

アピールをして、

完璧な状態で告白すると

決めていた。



7月21日。

今日から夏休みだ！

後今日は中体連。

俺の先輩の最後の大会だ。

練習はあまりしていなかったけど、なんとか1試合目は勝ち抜いた。

だけど2試合目は

運が悪く、優勝候補のチームとあたり負けてしまった。

悔しかったけど、

先輩達のサッカーには

とても感動した。

家に帰り綾香とのメールが始まった。

今日の敗戦があつたせいなのか、あまり綾香への対応が良くなかつた。

けど綾香は

一生懸命俺を

励ましてくれた。

やっぱり綾香はスタイルだけではなく、優しくてなにより思いやりのある人だった。

綾香への気持ちは徐々にエスカレートしていき、綾香と逢えない日々がとても寂しく思えた。

7月29日。

試合が終わり、生き抜きに友達の家に泊まりに行った。

友達の名は徹。

やたら身長が高い奴。

この日も綾香とのメールがたやせなかった。

早いうちに綾香をものにしたい。

11時32分。

俺は冗談で

『綾香の家に行きたいな』

すると、

『彼氏だったら家にいれてあげようと思っただけどなあ。』

後ろにいた徹が

俺のメールをみていた。

「お前何みてんだよ！」

「まっ、いいぢやねえかつ！（爆笑）」

「よくねえよ」

「わりい、わりい」

「誰にも言つなよ？」

「了解！」

徹に俺の好きな人を知られてしまったようだ。

いけねっ！綾香に返事を返していない。

『遅れてごめん。ぢゃあ綾香の家に彼氏連れて来た事って、！？』

何事もなかったように綾香から返事が返ってきた。

『いいよ？ないんだよね〜。』

『ぢゃあ俺が彼氏になろっかな！？（笑）』

俺は調子に乗っていた。

一瞬俺の額に若干汗が流れる。

綾香から返事がこない。

0時13分。

日にちが変わった。

ブウウウン、ブウウウン。

やっときた。

『ドキドキ』

は?!

受信者を見たら、

徹だった。

やられた。

徹は笑っている。

こいつは鬼だと思った。

再びバイブがなった。

『遅れてごめんね。今の話して、意味有り？』

俺はドキドキしながら

『意味有り！（笑）』

、、ぷ！笑えねえよ。笑

徹が呟いていた。

なんてやるうだ。

ブウウウン、ブウウウン。

『そうなんだ。(笑)』

その時  
徹が

「もう告ってしまえば？」  
「わかった」

ドキドキしながらメールを打った、

『俺、綾香のことずっと好きやった。綾香を幸せにするって約束するから付き合ってください。』



ドキドキしながら

返事を待つ。

それから約1時間。

ブウウウン、ブウウウン。

緊張のあまり震えながら

メールを見た。

、  
、

『又遅れてごめんね。』

ありがとう。

すごい嬉しいよ。

ぢゃあ約束ね？

翼のこと好きだよ。

『

ゝゝゝ  
ドキドキ。

「良かったぢゃねえか」

徹が呟いた。

「ああ」

7月30日。

俺と綾香は付き合った。

『よ！綾香』

『なあに？翼』

『今何しとる？』

『好きな人とメールをしているの。』

『誰誰？！』

『翼だよね！』

『はい。どうも！』

俺も綾香の事大好きやで。』

『綾香も翼大好き！』

いつもとは違うメールで今日も幸せだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2278d/>

---

あの日の場所で

2011年1月9日02時31分発行